

〒333-0833 埼玉県川口市西新井宿180
TEL.048-287-2525 (代表)
【診療受付時間】8:30~11:00
【休診日】日、祝、第2・4土、
年末年始（12月29日~1月3日）
※受診の際は、紹介状が必要です。

<https://kawaguchi-mmc.org/>



医療新聞DIGITAL
で更に詳しい病院
情報が見られます。

川口市立医療センター

循環器内科と心臓血管外科の成熟したハートチームが威力を発揮

患者さんの負担を減らすため
さまざまな術式を検討

肢静脈瘤などの末梢血管疾患治療にも取り組んでいる。

同センターが1994年5月

2017年に開設された川口市立医療センターの心臓外科に、20年から21年にかけて2つの大きな変化が起きた。ひとつは20年5月に北中陽介医師を部長に迎えたこと。心臓外科手術の

開院して以来、27年が経過。いまや三次救急、周産期医療、基幹災害拠点、がん診療連携の基幹総合病院へと飛躍した。その中核を担う2人の医師にイ

他にも、糖尿病内分泌内科、腎臓内科、小児科などとも垣根を超えた治療を行っています。

最も緊密なタッグを組んでいるのが循環器内科です。毎朝30~40分程度、循環器内科、心臓血管外科の医師全員と、看護師、リハビリテーション科、臨床栄養科などのコメディカルも参加するカンファレンスを実施し、治療方針などを決めています。週1回の手術症例検討会も循環器内科、心臓血管外科の医師全員で行っています。



副院長 循環器内科部長兼集中治療科部長
日本内科学会認定 総合内科専門医
日本循環器学会認定 循環器専門医
立花栄三

循環器内科は救命救急センターのCCU部門（集中治療室）

を運営し、24時間体制で急性心筋梗塞や急性心不全、不整脈などの重症患者を受け入れ、治療にあたっています。院外心停止の患者に対しては経皮的心肺補助装置（PCPS）で体外循環を行い、その後、脳低体温療法によって体温を35度台の低温にすることによって、脳へのダメージ軽減を図ります。

心臓血管外科が軌道に乗ったことで、心不全の原因となる心臓弁膜症や重篤な狭心症・心筋



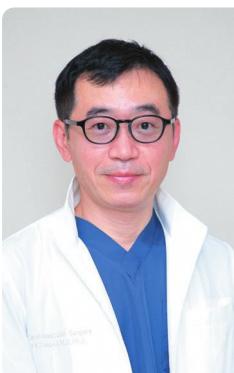
さまざまな心臓疾患への処置が行われる血管撮影室

豊富な経験を持つ北中医師が着任したことでの虚血性心疾患や弁膜症などの心臓疾患の手術件数が大幅に増加した。

もうひとつは21年4月、心臓外科から心臓血管外科へ診療科名を変更したことだ。対象領域を広げ、心臓、大動脈疾患だけでなく、閉塞性動脈硬化症や下

ンタビューした。

北中陽介
日本外科学会認定 外科専門医
日本心臓血管外科学会認定 心臓血管外科専門医
心臓血管外科部長



虚血性心疾患の治療では人工心肺を使わない心拍動下冠動脈バイパス術（オーフボンプCABG）を第一の選択肢として検討します。患者さんへの負担を、できるだけ減らすためです。もちろん症例に応じて人工心肺を使う術式も採用しています。

弁膜症では患者さん自身の弁を長く温存できる弁形成術に力を入れています。症例によつてはMICS（低侵襲心臓手術）も選択します。従来の外科手術では25ザン前後の切開創があつた

のに対し、MICSなら肋骨に沿って6~10センチほどを切開し、他にカーメラポート、遮断鉗子用の2カ所の孔を開けるだけで弁膜症の手術を実施できます。大事なことは患者さんができるだけ早く元の生活に戻ること。その患者さんにとつてベストな治療が必ずあります。そのため、さまざまな術式を検討し、最適と思われる選択をしています。

他の診療科との連携で治療の幅を広げていく

他の診療科との連携にも力を入れています。たとえばNICU（新生児集中治療科）や麻酔科と一緒に未熟児の動脈管開存症の手術を始めました。小さな体を通る細い血管にアプローチするため、繊細さが求められる手術です。このような治療ができるのも、29の診療科を備える総合病院ならではといえます。



救急車を受け入れて24時間体制で三次救急に対応

埼玉県南部の市民の健康を守る医療ネットワークの拡大へ

循環器内科と心臓血管外科がお互いを補完し合うことで、

循環器内科と心臓血管外科が

関からなる埼玉県南部医療圏CCUネットワークへと発展。これからも地域の期待に応え、医療機関連携に力を入れてきました。